

ふくしま未来研究会、信夫山福島電力、東京の事業者

再エネ共同開発合意

福島市のふくしま未来研究会と信夫山福島電力は、再生可能エネルギー―発電事業を全国展開するジャパ・リニューアブル・エナジー（東京都港区）と共同で県内に太陽光や風力の発電所建設を進める。三社が十四日、再生可能エネルギーの共同開発合意書を締結した。

三社はすでに県南地方に太陽光発電所二カ所（計約十万瓩）、県北地方に風力発電所一カ所（約三万瓩）の建設を計画している。今後、太陽光、風力をはじめ、小水力、バイオマスなどの発電所建設を通し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興に向けて歩む県内に再生可能エネルギーを根付かせる。

縮結式は福島市の信夫山福島電力本社で行われ、ふくしま未来研究会の佐藤勝三代代表理事、信夫山福島電力の渡辺和弘社長、ジャパ・リニューアブル・エナジーの竹内一弘社長が合意書に署名し、握手を交わした。

信夫山福島電力はふくしま未来研究会など



合意書を締結し握手を交わす（左から）竹内社長、佐藤代表理事、渡辺社長

の普及に取り組んでいる。

ジャパ・リニューアブル・エナジーは米ゴールドマン・サックスの出資を受けている再生可能エネルギー専門の発電事業者。現在、国内で太陽光発電所二十二カ所、風力発電所二カ所を稼働させており、平成三十二年までに百万瓩（原子力発電所約一基分相当）の再生可能エネルギーの発電所運営を目指している。